

令和 4 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校園コード（代表者校園の市費コード）
735661
選定番号
202

代表者	校 園 名：	大阪市立墨江幼稚園
	校園長名：	畠山 美華
	電 話：	06-6671-6516
	事務職員名：	矢萩 裕之
申請者	校 園 名：	大阪市立墨江幼稚園
	職名・名前：	園長 畠山 美華
	電 話：	06-6671-6516

## 令和3年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和3年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ	豊かな人間性を培い、力強く生きる力を育む			
3	研究目的	◎大阪市立幼稚園全52園で5つの研究部を構成し、幼児の実態と課題を基に教育実践に取り組み、教育活動の充実と教員の資質向上を目指す。 ○幼稚園教育要領に示されている「領域」のねらい及び内容に基づく教育活動全体を通して、幼稚園教育において育みたい「知識及び技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」を育む。 ○「就学前教育カリキュラム」を活用し、「知・徳・体」をバランスよく総合的に生きる力を育む。 ○幼稚園教育が小学校以降の生活や学習に深くつながることを踏まえて、小中学校教育研究会と連携し、教員の教育実践の充実と資質向上を図る。 ○研究会全体会や研究部会、講演会を実施し、その内容を実践に生かすことで、教員の指導力向上を図る。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSゴシック 9.5ポイント） 5つの研究部が、幼児の実態や社会の実情から設定した研究主題をもとに実践研究した。 ・第1ブロック研究部「幼児が夢中になって遊ぶ保育実践を通して、自己肯定感を育む」 ・第2ブロック研究部「幼児が主体的に遊ぶ中で、思考力を育むにはどのようにすればよいか」 ・第3ブロック研究部「考えたり工夫したりして遊ぶ中で、人と関わり、充実感を味わう幼児を育てる」 ・第4ブロック研究部「身近な環境に主体的に関わり、自分の思いを伝える幼児を育てる」 ・保健研究部「幼児が安全に過ごすために必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動できる力を育てる」 ①研究会全体会で予定していた、大学准教授の講演をDVDに収録し全園に配布することで、研究の目的と重要性について共通理解した。（6月） ②研究部会を行い、各研究部の研究主題の共通理解を図るため、また各園の課題を踏まえながら特色を生かした研究を進めるため、研究主題の捉え方や研究の取組について報告した。また、指導主事から指導助言を受けながら共通理解を深め、実践の充実に取り組んだ。（5.6月） ③各園の実践の充実を図るため、全園が保育実践や保健指導記録を取り、月1回程度、各園またはブロックの研究主担として専門委員が集まって専門委員会を実施した。実践記録を基に、各研究部が研究主題に迫る分析や考察をし、討議した。（通年） ④研究主題に対しての専門知識、見聞を広げるために全国の研究大会及び研究保育に参加し、伝達研修を実施した。（オンライン） ・第74回近畿養護教諭研究協議会（7月） ・第69回全国幼児教育研究大会 兵庫大会（8月） ・第63回近畿音楽教育研究大会 京都大会（11月） ・全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 大阪大会（11月） ⑤研究主題についての共通理解を深め、多面的に幼児理解する力をつけたり、教育的意図をもった働きかけや保育の見通しについて学んだりするために、オンラインによる外部講師講演会を実施した。 ・第1ブロック研究部（7月・8月）・第4ブロック研究部（9月）・保健研究部（9月） ⑥第1ブロック研究部、第2ブロック研究部、保健研究部は、各園の実践を基に分析、考察し分かったことや学んだことについて2年間の研究の成果としてまとめ、大阪市教育センターにて収録した。後日、DVDに収め、全園や関係機関に配布した。各園でDVDを視聴し、各園の研究や各自の学びを振り返ったり、話し合ったりして学びを共有した。（12月） ⑦第3ブロック研究部、第4ブロック研究部は、各園の実践を他の園に知らせ、互いに学びを深められるように、研究資料集を作成し、DVDに収録して各園や関係機関に配布した。（2月） ⑧研究会や各研究部の研究のまとめとして、研究集録第62号を作成、刊行した。（3月）			

5	研究発表等の日程・場所・参加者数	研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。							
		日程	令和	年	月	日	参加者数	約	名
		場所							
	備考	成果発表の内容をDVD収録し、全52園と関係機関に配布した。							
6	成果・課題	大阪府教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。							
		【見込まれる成果1】 研究部内での研究保育の参観、研究討議を通して、幼児の遊びの姿の読み取り、環境構成や教師の教育的意図をもった働きかけを具体的にし、実践に生かしていくことで、思考力・表現力・判断力等の基礎、学びに向かう力、人間性等を培い、主体的に活動する子どもを育成する。  《検証方法》 研究成果発表会で参加者全員に実施したアンケートで、本研究活動で「子どもたちのどのような力の育成・向上につながっているか」の設問に対して、該当する項目の肯定的な回答を昨年度以上にする。  〔検証結果と考察〕 アンケート結果は、アンケート9項目のうち5項目が昨年度を上回った。コロナ禍であることから、各研究部では、人数制限をして実地での研究保育参観を実施したり、オンラインで、研究保育指導案を基に、保育の動画や写真を用いて実践保育を分析したりして研究主題に迫る討議を行った。実践を通しての討議により、それぞれの研究が深まり「言語力・表現力」「自尊感情（自己肯定感）」「思考力・表現力」「体力・運動能力」の設問に対してのポイントが昨年度より大きく上回ったと考える。また、「他者を思いやる気持ち」のポイント向上は、非認知能力の育成の点において研究が深まったと捉える。							
		【見込まれる成果2】 実践記録を取り、分析や考察をすることで、教員の幼児理解が深まり、個や集団に応じた教育的意図をもった働きかけや環境の工夫が進み、指導力の向上が図られる。  《検証方法》 研究成果発表会で参加者全員に実施したアンケートで、本研究活動で「教員のどのような力の向上が図られているか」の設問に対して、「教育的意図をもった働きかけ」の回答を昨年度以上にする。							
		〔検証結果と考察〕 アンケート結果は、昨年度より2ポイント上回った。各研究部が年間を通して実践記録を取り、幼児の育ちにつながる教師の教育的意図をもった働きかけや環境について分析し、考察した。幼児の姿を多面的に読みとり、具体的な教育的意図をもった働きかけについて学び合ったことにより、教員が「教育的意図をもった働きかけ」の力の向上につながったと実感できたと考える。3 - (2) アンケート結果「保育指導の力」の回答が、昨年度よりも向上していることから、教育的意図をもった働きかけや環境の工夫をしたことが指導力の向上につながっていると考えられる。							
		【見込まれる成果3】 各研究部の専門委員会や、専門委員を中心に、実践記録を再度分析、検討したり、討議会の進め方について専門研修を受けたりすることで、研究活動をリードする力を養うことができる。  《検証方法》 研究成果発表会で参加者全員に実施したアンケートで、本研究活動で「教員のどのような力の向上が図られているか」の設問に対して、「コミュニケーションスキル」「リーダーシップ」の回答を昨年度以上にする。  〔検証結果と考察〕 アンケート結果は、「コミュニケーションスキル」については昨年度と同じで、「リーダーシップ」については昨年度より2ポイント下回った。各園の研究主担（専門委員）による専門委員会や部員が参集しての研究部会の実施が難しかったが、人数制限をして部長・副部長参加でオンラインを活用しての討議会の進め方についての専門研修を実施した。専門研修で学んだことが、オンラインでの専門委員会や部会に生かされ、研究活動をリードする力が向上した。各園がオンライン参加で研究討議を進める上では、専門委員が中心となり、部員一人一人が主体的に研究に取り組むことができた。							

6	成果・課題	<p><b>【見込まれる成果4】</b> 講演会や実技研修に参加することにより、新たな知見を得たり、技術を獲得したりして、幼児理解や教育実践に生かすことができる。</p> <p>《検証方法》 研究成果発表会で参加者全員に実施したアンケートで、本研究活動で「教員のどのような力の向上が図られているか」の設問に対して、「保育指導力」「幼児理解力」の回答を昨年度以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 アンケート結果は、「保育指導力」が昨年度より3ポイント向上し、「幼児理解力」は昨年度と同じだった。保育指導力については、各園が自園の実態を踏まえて研究主題に迫る実践を行うことで、保育実践記録の検討会が充実し、幼児の姿や思いの読みとりが深まり、見通しをもった保育展開に生かされたことが保育指導力向上の実感につながったと考える。また、専門委員による討議と各園での再検討により、幼児の姿を多面的に読みとる力がついた。幼児理解力については、参加者の人数を制限して実際に他園の研究保育を参観したり、オンラインで、研究保育指導案を基に、幼児が活動する動画や写真を用いて討議したりすることで幼児理解が深まった。</p> <p><b>【見込まれる成果5】</b> 研究保育の公開及び、公開保育参観、研究討議への参加等により、幼児の見方、考え方を理解し学びの姿の捉えるようになり、園の教育環境や教育内容の充実につながる。</p> <p>《検証方法》 研究成果発表会で参加者全員に実施したアンケートで、本研究活動が「心豊かに力強く生き抜く力、未来を切り拓く力」の育成につながっているかの設問に対して、肯定的な回答を昨年度以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 アンケート結果は、昨年度より1ポイント上回った。肯定的回答が100%であり、本研究活動の成果が認められる。研究成果発表会を収録したDVDを視聴して会員一人一人が学び、視聴後の各園での討議により学び合うことで、研究の取組や保育の実践を振り返ることができた。また、各研究部の研究主題設定において、実態と課題を踏まえた幼児期に育みたい力が明確であり、「心豊かに力強く生き抜く力、未来を切り拓く力」の育成となる実践を積み重ねた結果である。成果4に示したように、保育指導力の向上を実感する教師が増えたことから、実践と評価を繰り返しながら、園の教育環境や教育内容の充実につながった。</p> <p><b>【研究全体を通じた成果と課題】</b> 具体的に記載してください。</p> <p>&lt;成果&gt; ・今年度も新型コロナの影響が続いたが、各園が実態と特色を踏まえた保育実践を充実させ、討議を重ねたことは、保育の質と教員の指導力向上につながった。また、各研究部では、昨年度の研究の取組を生かすと共に、オンライン活用を充実させるなどして、部長・副部長や専門委員を中心に保育実践を分析、考察を深めることができた。 ・研究会全体会（6月）で予定していた講演をDVDに収録して配布した。講演内容から、研究によって、幼児理解が深まり、保育の質の向上につながると学ぶことができた。 ・研究大会がオンライン開催となり、各研究部の研究主題に対しての知識や見聞を広げた。部会（オンライン開催）での伝達により、部員が学びを共有し、研究に生かすことができた。 ・研究成果発表（第1・第2ブロック研究部・保健研究部）をDVDに収録、配布したことにより繰り返し視聴でき、各園での討議が充実した。また、資料集（第3・第4ブロック研究部）もDVDにまとめて配布した。これらのデータを基に、様々なキャリアの教員が一緒に学ぶことで、気付くことや違う捉え方を知る機会となり、各園の保育実践の充実につながった。</p> <p>&lt;課題&gt; ・コロナ禍で、研究部員全員が参集して実地の研究保育を参観することが難しいときには、オンラインで保育指導案を基に動画や写真を用いて討議を実施することが多かった。また、担当指導主事の講話や外部講師の講演などを、研究部員全員で共有できるようにオンラインを用いることも多かったため、研究手段を広げるために、資料準備や実施できるスキルアップが必要である。 ・共同研究を進めていく上で、研究部の研究主題や研究の方向性を共通理解することが重要となる。各園の実践保育の充実に向けて、様々なキャリアの教員が主体的に研究に取り組み、教員全体の資質向上を図る。</p> <p><b>《代表校園長の総評》</b> ・52園、各園の実態を踏まえた保育実践から学び合えることが多く、保育の積み重ねと教師の教育的意図をもった働きかけ、見通しをもった保育展開などの取組が全体の資質向上につながった。 ・アンケート結果にあるように、教員自身が「保育指導の力」「幼児理解力」「課題意識」「教育的意図をもった働きかけ」の向上を実感できたことが大きな成果であった。学び続ける教員として、幼児が安心して自己発揮し、主体的に活動する育成に努めると共に、教師自身も、主体的に自らの保育実践を分析して振り返り、改善していく姿勢を感じることができた。 ・研究の成果を来年度の研究に生かし、大阪市立幼稚園教育研究会としての取組をより一層充実させたい。</p>
---	-------	---